

# サトイモの生育初期灌水技術について

高収益畑作担当 印南 ゆかり

## 1 ねらい

サトイモは、夏期に灌水を行うと高品質多収となることが知られています。しかし、生育初期の灌水に関する知見はほとんどありません。

そこで、本研究では生育初期の灌水が子芋や孫芋に与える効果と高品質多収となる灌水適期を検討しました。

## 2 研究内容

試験は、2022年～2023年に、埼玉県農業技術研究センター内ほ場（淡色黒ボク土）において、サトイモ品種「土垂」と「蓮葉芋」を供試し、実施しました。試験区は、①5月中旬～6月上旬灌水区、②6月上旬～6月下旬灌水区、③6月下旬～7月中旬灌水区、④無灌水区（対照区）の4区を設定しました。灌水処理は、無灌水区を除いた試験区の土壤水分（体積含水率）が20%を下回ったら、1回当たり20L/m<sup>2</sup>を畝間に設置したエバフローを用いて畝上に水がかかるように行いました。また、全ての区で、処理終了後の7月下旬～9月中旬に、7～10日おきに1回、1回当たり40L/m<sup>2</sup>を灌水しました。

芋の生育は、5月中旬～6月上旬灌水区で、「土垂」、「蓮葉芋」とともに、6月上旬の子芋の着生数と7月中旬の孫芋の着生数が他の区に比べ多くなりました（図1）。

収量は、年次により総収量は異なったものの、5月中旬～6月上旬灌水区で、「土垂」、「蓮葉芋」とともに、3L～Lサイズの芋の収量が多くなりました（図2）。

以上の結果から、5月中旬～6月上旬に灌水を行うことで、子芋が早期に着生・肥大するため、孫芋の着生や肥大も早まることがわかりました。また、サトイモの子芋・孫芋は、着生してから縦方向に伸びた後、横方向に肥大するため、着生が早まることで芋が肥大する期間が長くなり、商品性の高い3L～Lサイズの芋の収量が多くなったと考えられました。

## 3 今後に向けて

今後は、サトイモの更なる生産拡大に向け、関係機関と協力・連携し、情報提供を行うなど産地を支援していきます。

本成果を現地に導入する際は、気象状況に留意し、降雨が多く、土壤水分が高すぎる場合は、生育に悪影響を及ぼすおそれがあるため灌水を控えてください。

## 要旨（成果発表）

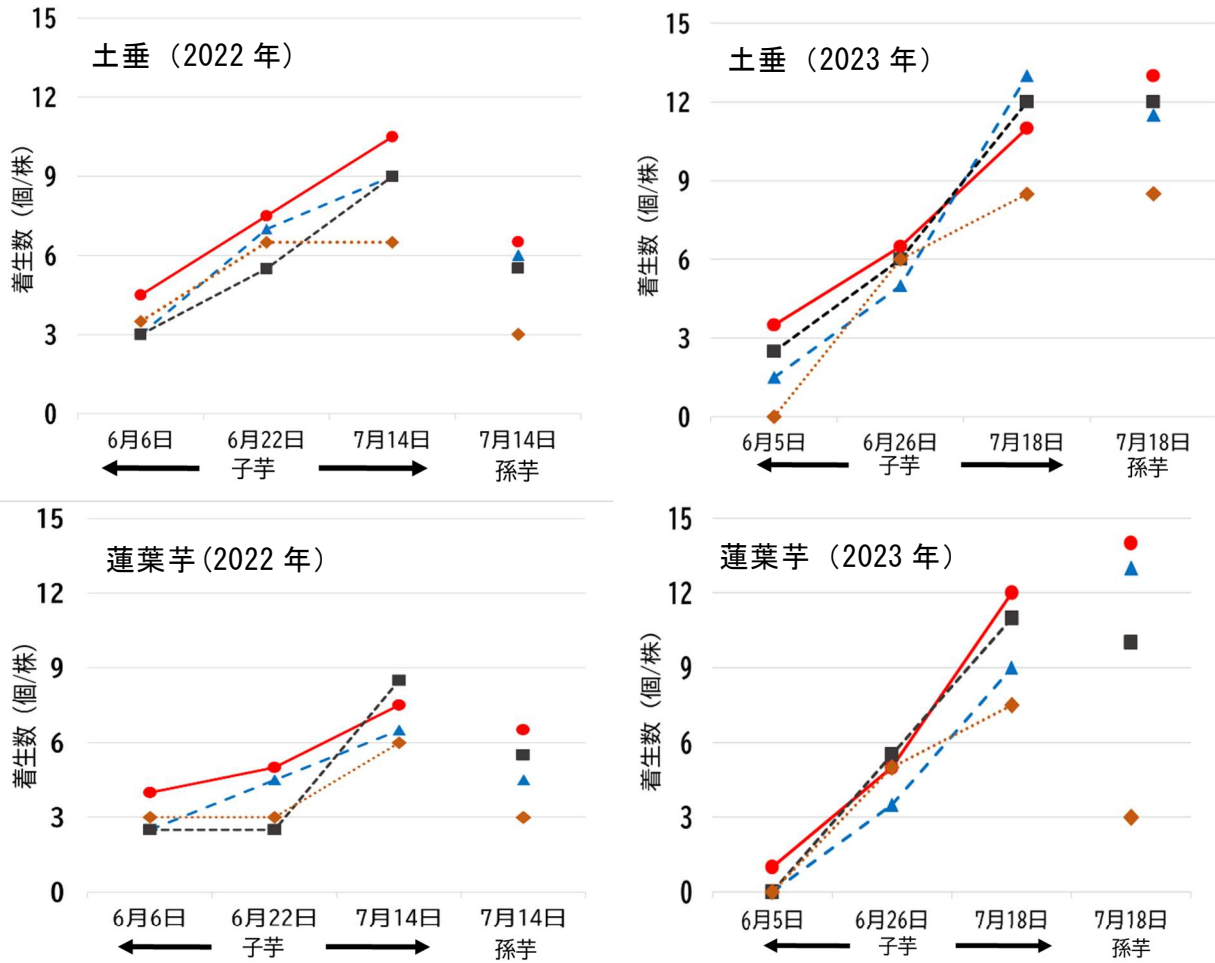


図1 子芋・孫芋の着生数

注) グラフの折れ線は子芋、グラフ右側のマーカーは孫芋を示す。

- 5月中旬～6月上旬区 ▲ 6月上旬～6月下旬区 ■ 6月下旬～7月中旬区 ◆ 無灌水区
- 5月中旬～6月上旬区 ▲ 6月上旬～6月下旬区 ■ 6月下旬～7月中旬区 ◆ 無灌水区

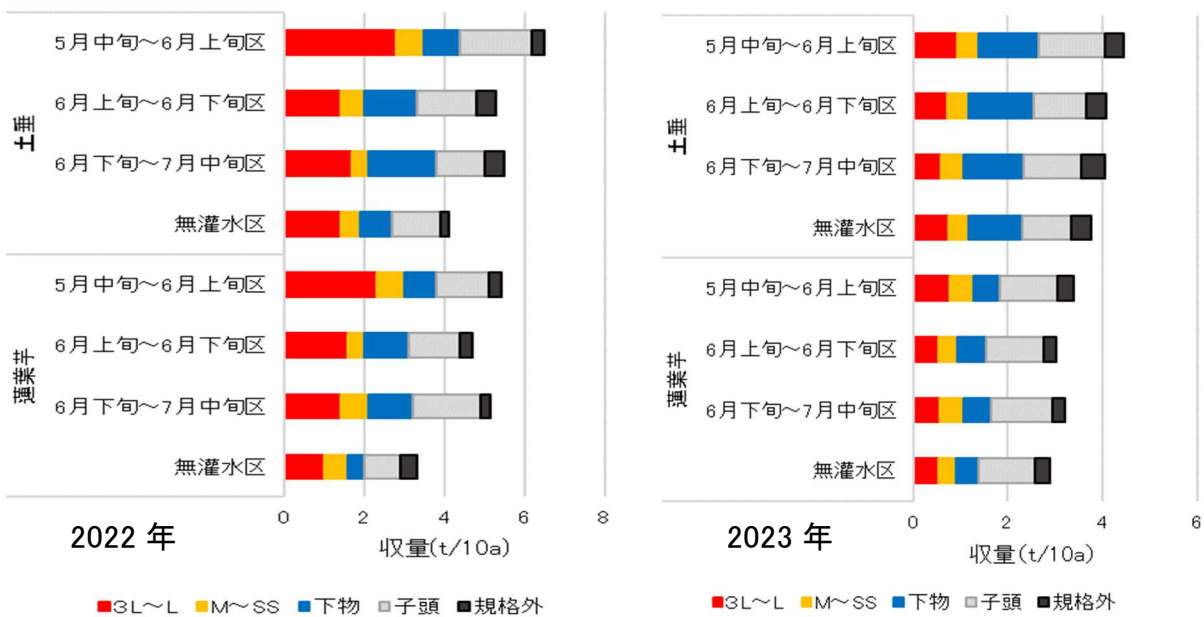


図2 規格別重量内訳